

社会や人間が新しい技術と安心して共存できるようにするために、社会やそれを構成する人間や組織、さらにそれぞれに対する文化や地域の違いが新しい技術に何を求めていくのか？といった技術の社会的形成と技術の社会受容性について、《社会・文化的側面》と《人間的側面》から考える。

I. 社会・文化的側面（佐倉）

- ・ AIやロボットの社会イメージの変遷やSFなどにおける描かれ方の比較
- ・ ファッションデザインにおけるAIの役割の検討
- ・ AIやロボットの受け入れられ方についての人類学や法・宗教などの観点からの調査
- ↓
- ・ 浮世絵に描かれている母子関係と、現代の人-ロボット関係の捉え方の共通点を発見（図1）
- ・ 倫理考慮デザインにおける道教の影響の分析
- ・ 異分野研究会企画・主催（8回／2018-19年度）
- ・ AI研究者から哲学者まで、起業家から能楽師まで
- ・ 中国、台湾などの国際学会・研究会で招待講演
- ・ ファッションデザインにおいてAIは何かができるか？ 役割の検討
- ・ AI倫理の基礎的研究～倫理概念の修正と拡張

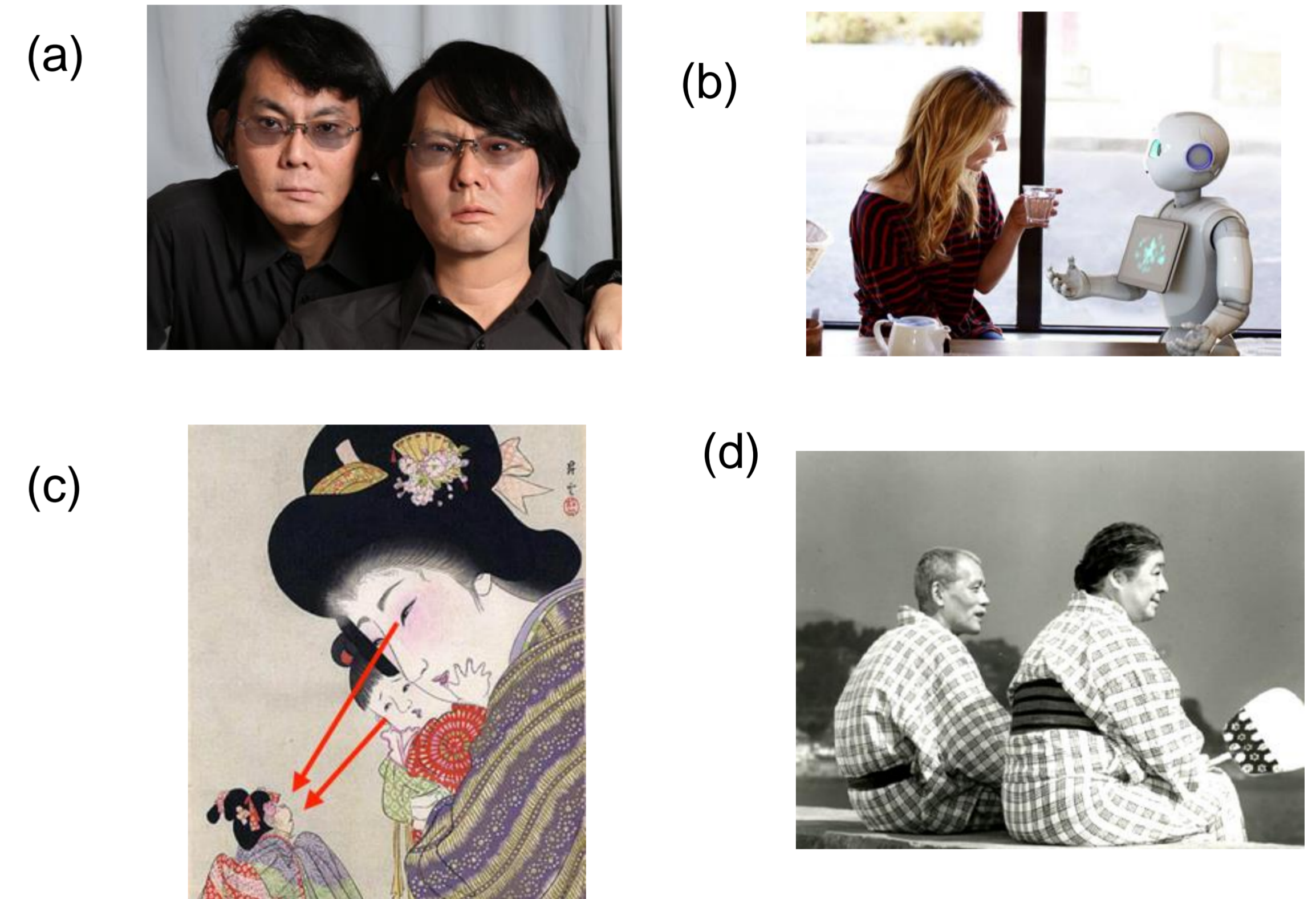


図1 人とロボットを写した写真の配置が、日本では横並び (a)、欧米では向かい合い (b) が多い。日本のこの配置は浮世絵に描かれた母子 (c) や映画 (d) で好まれる「第三項共視」と共通する。

II. 人間的側面（福住）

- ・ 安心してAI技術が使えるようにするための設計手法
- ・ AI技術を使うことによる人や社会への影響の評価とフィードバック
- ↓
- ・ 科学技術と社会シンポジウム主催（2回/2019年度）
- ・ 安心して新しい技術が使えるようにするための設計手法の開発
- ・ システムに、安心・倫理などの社会デザイン志向要素を埋め込む
- ・ 人間と技術が共存するための環境の評価項目開発→ワークプレイス改革（図2）
- ・ AIを利用することによる品質への影響が、AIなどの自律システムと従来の人工物とで何が異なるか？
- ・ 従来のAIガイドラインは研究者開発者側からのものが多いが、ユーザー視点でのガイドライン項目を抽出。人間工学の国際規格であるISO/TR 9241-810: Ergonomics に採用

・ 研究成果
招待講演10、論文6

・ 成果の活用
技術者教育／導入教育への応用
標準化へのインプット

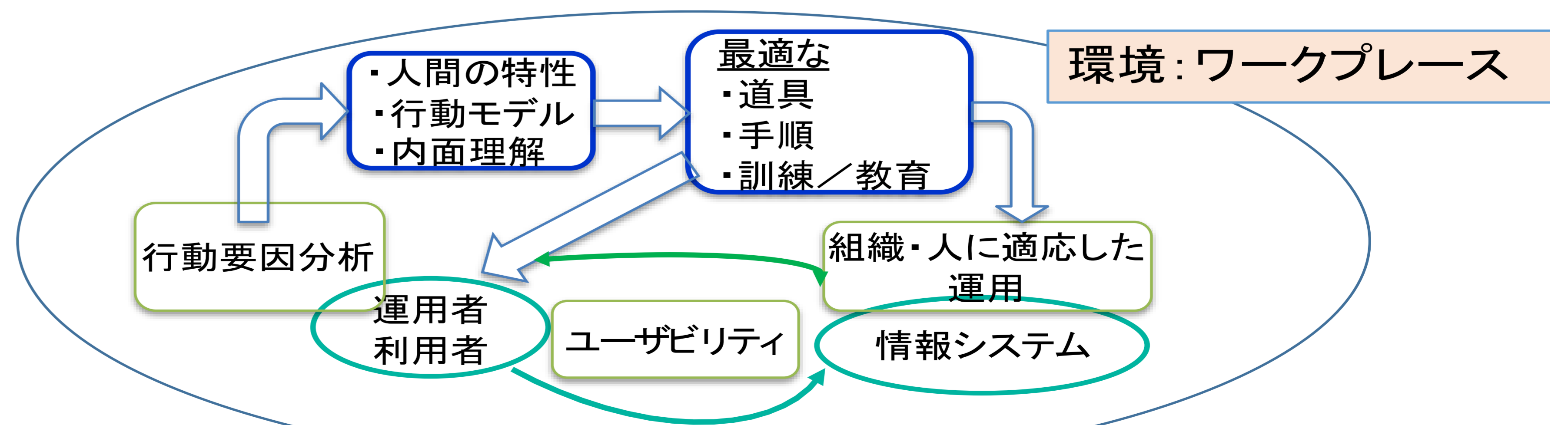


図2 人と技術の共存する環境要因評価項目を開発し、快適な職場環境の実現をめざす。AIをどのように使うかによるAI導入の影響評価を目指す